



校報

わきいち

和合協力 気力体力 意志強固 知識探求 創立 明治8(1875)年7月15日

〒010-0342

男鹿市脇本脇本字上野1番地1

男鹿市立脇本第一小学校

TEL 0185-25-2215

FAX 0185-22-2009

HP www2.namahage.ne.jp/~wakiichi

耳を澄まし、耳を傾ける

校長 佐藤 和久

◆ジョン・ケージは、米国の現代音楽家です。彼の前衛芸術作品は、古典音楽の対極にあり、代表作曲に『4分33秒』があります。演奏会でピアノ演奏者は音を奏でることはなく、オーケストラの指揮者は指揮棒を振ることもなく、4分33秒間が経つと舞台を後にします。楽譜の第1~3楽章には総休止を表すtacetが付けられ、音響を出す指示がないからです。聴衆は、演奏音響を聴くことはなく、演奏会場内外の音、意図しない偶発的な音等に耳を澄ますこととなります。沈黙の状況になりますが、決して無音の状況ではありません。◆『みみをすます』(福音館書店)という谷川俊太郎の詩があります。昨日の雨だれの音から始まり、人の足音、生き物、自然、人の思い、社会、そして、壮大に一兆年前の宇宙の発する音にまで耳を澄ますと、詩人は言います。読者は、様々な事象の発する音を通して、耳ばかりではなく、目、心までが現在、過去、未来へと向かわされ、音なき音、声なき声にも気付かされます。◆料理専門の家政婦・サタン志麻さんは、言います。依頼主のリクエストに「共通しているのは、どんなにあわただしい毎日でも、食事だけは大切にしたいという思いです。家族の健康と成長に気を配りつつ、おいしいと喜んでくれる料理を用意したい。そんな悩みにも似た注文に耳を傾けながら、どうしたら希望にこたえられるか考えてきました」と。『伝説の家政婦 志麻さんがうちに来た!』(世界文化社)◆私たち脇一小の教職員も、耳を澄まし、耳を傾けます。子どもたちの心音に、目の輝やく音に、優しく微笑む顔の音に、流した涙の音に、大きく成長したい、友達と仲良く過ごしたい、勉強ができるようになりたい…という思いに。保護者・ご家族のお子さんの健やかな成長への願いと学校への思いにも、地域の皆様の学校への思にも、コロナ禍の社会の発する音にも耳を澄まし、耳を傾けます。そして、一人一人の希望・要望にこたえるために学校が何をできるか考え、取り組んでいきたいと思えます。年の初めに、教職の原点に帰って考えました。



★PTA授業参観日…1年国語科学習「じどう車くらべ」から



◆ お世話になりました ◆

私事都合により12月末で退職となりました

夏井博康 学校校務員

(本校在職 2年9ヵ月)

お願い 『創立80周年記念誌』を探しています!

脇一小創立80周年の昭和30(1955)年に発行された記念誌を探しています。お持ちの方、または持っておられる方をご存知の方は、学校までご連絡ください。

おしらせ 『教育活動アンケート』について

保護者の皆様には、12月に実施した「脇一小の教育活動に関するアンケート」に回答をしていただき、ありがとうございました。

結果については、後日お知らせいたします。



「赤い羽根共同募金」の報告

17,974円

★児童会で募金活動を行いました。ご協力、ありがとうございました。



★最終回日に来校されたピーチクラブの皆さん

ありがとう! ピーチクラブさん 楽しい読み聞かせでした

脇一小での読み聞かせ「約25年間」

ピーチクラブ(〇〇〇〇 代表)様による本校での読み聞かせ活動は、約25年間にも及んでいます。今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、読み聞かせ回数を減らし、4回でした。また、例年、最終回の日で開催していた全校での大型絵本の読み聞かせ会も行うことができませんでした。

しかし、4名で交代して学年ごとに行われた読み聞かせでは、どの学年の子どもたちもじっくり、絵本や物語の世界に浸ることができました。



本年もよろしくお願いいたします。
令和三年 元日

脇本第一小学校

謹賀新年

★大事な新人戦

投げた球
ミットに向かって
剛速球
いい球たくさん
投げれたよ
緊張の決勝戦
ここまできたら優勝だ
投げた球
セカンドベースに
一直線
とう塁さして
うれしいな
打った打球
左中間に一直線
走れ走れ
ねらうは
三塁打

○○○○

★夏の夜赤く燃えゆく夕焼けと心静まる蝸の声

○○○○

★試合中一打ぎやく点打ってやるきんちょうの打席みんながいのる

○○○○

新しい年が明けました。今年は、「丑年」。一步一步、牛歩であっても前に進んで行く一年でありたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

★ラジオ体操そう

ラジオ体操そう
朝起きて運動だ
ラジオ体操そう
三人しかいないけど
地域の人も集まって
元気にたくさん運動だ
ラジオ体操そう
みんなといっしょにやっていると
元気がどんどんあふれ出る
「さあ今日もがんばるぞ！」

○○○○

おしらせ 『児童いす用の座布団』について

冬場の授業中においてもコロナ対策として常時、ストーブをつけたまま教室内の換気を行っています。少しでも子どもたちの寒さを和らげるため、必要であれば、座椅子に敷く小さい座布団を持たせてもかまいません。合わせて衣服の厚着にもご配慮をお願いします。

おしらせ 家庭で眠っている『体育着』について

古着でも十分使える脇一小体育着をほしいご家庭に譲りたいという声があります。先日、コミュニティスクール企画委員会でも話題になっていたところでした。在校生、卒業生を問わず、お子さんの古い体育着(どのサイズでも可)があれば、まずは学校にお届けください。

PTA授業参観&中学校入学説明会を開催!

先日の授業参観・学級懇談へのご参加、ありがとうございました。コロナ対策として、室内換気をする都合上、窓・戸を締め切ることができず、寒く感じた方もいらっしゃると思いますが、事情をご理解ください。この日は、学級懇談会の終了後、男鹿東中の生徒指導と事務担当職員等が来校し、中学校入学説明会を開催しました。また、男鹿署員からはSNSとの付き合い方のお話がありました。子どもも保護者も注意深く耳を傾ける姿が印象的でした。

「皆さんの入学を楽しみにしています」

たくさん本に親しもう！図書委員が呼びかけ

図書委員の子どもたちが、お薦めの本をクイズで紹介しながら、読書の楽しさを伝え、たくさん本に親しんでほしいと呼びかけました。昼の読書タイムには、学校図書や市立図書館の貸し出し本、自宅から持ち寄った本に読みふける子どもたちがたくさんいます。「〇〇書店」と記されたブックカバー付きの本を読む姿を見かけると、本屋さんで家族一緒に本を選ぶ姿も想像できます。この冬休みに時間があれば、本屋さんにも足を運んでみてはどうでしょう。

「みんなのお薦めの本は何かな？」

最優秀賞は2年生に！最高記録賞は6年生に！なわとび集会

◎最優秀賞 2年生（195回、117回の上回り）
「3分間の長縄8の字跳びの回数」で「昨年度の自己学級記録を上回った回数」で競い合いました。

◎最高記録賞 6年生（373回、脇一小新記録）
「3分間の長縄8の字跳びの回数」で競い合いました。

★秋のマラソン大会終了後、体育科学習や休み時間に少しずつ練習を積み重ねて本番に臨みました。全学年で記録更新を目標に、リズムに合わせて全力で取り組む姿がありました。これからも冬場の体力つくりとして引き続き「短縄とび」にも取り組んでいます。

★あいうえおのうた

ありさん うじゃうじゃ あいうえお
 からすと きじで かきくけこ
 さんだる そつくす さしすせそ
 たんぼに とりきた たちつてと
 なすびに にんじん なにぬねの
 はしると ふうふう はひふへほ
 まつりに おちゆう まみむめも
 やきいも やけたよ やいゆえよ
 らくらくるんるん らりるれろ
 わあわあ わわわわ わいうえを

あいうえお

★このあつさ水風船で遊ぼうか水をたつぷりパーンとわるよ ○○○○

★コロナの夏夏休みらしき感じない花火は五分旅行も行けない ○○○○

★夏の日にミニミニミニミニミニミニミニミニミニミニミニミニミニミニミニミニ ○○○○

★長い道ひまわりみんななそっばおむく ○○○○

★おとうとの三りん車おす夏の風 ○○○○

文学祭

★かぶとむしと くわがたのけんか ○○○○

かぶとむしは きのお
 くわがたと けんかをして ころがった



◆今年で47回目を数える男鹿市児童生徒文学祭で入賞した本校児童の作品を紹介します。どれも素晴らしい作品です。

おめでとうございます (敬称略)

★令和2年度 男鹿市児童生徒文学祭

〈俳句〉◎入選	2年	○○	○○
	2年	○○	○○
〈短歌〉◎入選	3年	○○	○○
	3年	○○	○○
	3年	○○	○○
◎佳作	4年	○○	○○
	6年	○○	○○
〈詩〉◎優秀	1年	○○	○○
◎入選	5年	○○	○○
◎佳作	1年	○○	○○
	5年	○○	○○

★令和2年度 6年生応援全県小学生バレーボール大会 ◎第3位 エンジェルウィング

★第10回潟上カップ小学生バレーボール交流大会

〈Eブロック〉◎第2位 エンジェルウィング
 〈Cブロック〉◎第3位 北陽バレーボールスポーツ少年団

エンジェルウィング【脇一小在籍のメンバー】(6年)0000、(5年)0000、(4年)0000、(3年)0000、0000
 北陽バレーボール【脇一小在籍のメンバー】(4年)0000、(6年)0000

★第12回男鹿潟上地区フットサルリーグ

〈U-12の部〉◎優勝 グロースFC
 ◎第3位 男鹿ユナイテッドFC

★第32回TOYOTAジュニアカップ少年サッカー大会 ◎第4位 グロースFC

★第46回豊島杯争奪全県選抜少年サッカー大会 ◎準優勝 グロースFC

グロースFC【脇一小在籍のメンバー】(5年)0000、(5年)0000
 男鹿ユナイテッドFC【脇一小在籍のメンバー】(6年)0000

★令和2年度 男鹿潟上南秋学校保健会 健康生活推進顕彰児童生徒 表彰

◎6年 ○○ ○○ ◎6年 ○○ ○○

★令和2年度 小学生学年・体重別柔道交流大会

〈1年生の部〉◎優勝 1年 ○○ ○○
 〈2年生の部〉◎第3位 2年 ○○ ○○
 〈3年生35kg超級〉◎優勝 3年 ○○ ○○

★第9回小玉杯バスケットボール大会

〈小学生男子の部〉◎準優勝
 船越男子ミニバスケットボールスポーツ少年団
 船越男子ミニバス【脇一小在籍のメンバー】(6年)0000、0000

8日	金	市児童生徒書き初め展(ハートピア ~15日)
14日	木	冬休み明け授業開始日、冬のぐんぐん集会
15日	金	チャレンジアップテスト(国語)
18日	月	チャレンジアップテスト(算数)、委員会活動⑨、ALT学校訪問⑳ 新春図画コンクール審査、20日分の6校時目の授業あり
20日	水	18日分の6校時目の授業あり
21日	木	全校5校時限
25日	月	ALT学校訪問㉑
27日	水	チャレンジタイム⑥
29日	金	なかよし清掃

3日	水	委員会活動⑩
4日	木	新入学説明会・体験入学
17日	水	委員会活動⑪、チャレンジタイム⑦
19日	金	学年末PTA授業参観日
25日	木	新1年生連絡協議会
26日	金	なかよし清掃

◆この紙面の情報は、12月23日現在のものです。今後、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点等から更に変更する場合がありますのでご承知おきください。

★問い合わせ★ 男鹿市立脇本第一小学校
 TEL 25-2215 FAX 22-2009 (教頭まで)

《特集 故きを温ねて新しきを知る》

明治・大正・昭和の「来校者」

校長と研究つながりの人物の巡見から、当時から男鹿は人類学や考古学、地質学の魅力的な研究の地であったことが分かります。▼県視学官の持参した公文書や脇本出身の軍人の来校等から、国家主義の時代背景が見えてきます。日清・日露戦争の戦利品の配付は全国で行われました。(*6・7)▼脇本駐車場の開業に伴う脇本地区の賑やかな様子が伝わり、16日後脇本から汽車で修学旅行に出発しています。▼耳腔技術士や学校医の診察から、児童生徒の耳・目の健康状況が分かります。また、校内研修会に外部の専門家を招聘し、研修を積む教職員の姿が見えてきます。終戦の約5ヶ月後の進駐軍による学校現場の巡視は、戦前・戦中の国家主義の排除状況を調べるものでした。対応した教職員の緊張感も伝わってきます。

〈明治29(1896)年5月20日〉 理学士佐藤傳蔵氏、地質調査トシテ當地ニ巡回。本日佐藤校長ト共ニ地獄谷地へ巡見セリ。〈全21日〉佐藤校長、佐藤理学士、寒風山近傍巡見。〈全22日〉佐藤校長、真井田訓導、佐藤理学士、全上。〈全23日〉佐藤校長、本日ヨリ四日間ノ見込ヲ以テ佐藤理学士ト共ニ二門前地方ヘ向ケテ出立ス。(*1)

註) 佐藤傳蔵…明治22~大正17年、熊本市生まれ。専門は地質学・鉱物学。人類学と考古学の研究もする。佐藤初太郎…生年不明~明治39、秋田師範学校出身。第3代脇本小学校長(明治21.11~31.4)後、山本郡麻生地方に転勤。東京人類学会(現日本人類学会)を通じ男鹿・山本地域の遺跡・遺物を紹介。秋田県第一中学校(現秋田高校)で日本歴史植物学を教授。明治37年、函館中学校(現北海道函館中部高校)に赴任。地獄谷地・脇本飯村にあり、石器時代の石器・土器が出土>(*3-4-5-10)

〈明治32(1899)年6月5日〉 佐竹侯爵、男鹿地方へ御出車アラセラレヲ以テ職員生徒一同午前十分本村上野ニ於テ御迎ス。(*1)

註) 佐竹侯爵…佐竹義生。久保田城の県移管の際「千秋公園」と名付けた(*10)

〈明治37(1904)年10月5日〉 耳垢掃除師清水某ナルモノニ当校児童ノ耳中ヲ検セシメタルニ、式百名ノ内六十六名ニ障害物アルヲ以テ全部之ヲ除去セシメタリ。然シテ御礼トシテ金参円、役場ヨリ支払セリ。(*1)

〈明治39(1906)年11月13日〉 東京摂生堂派出ノ耳腔技術伊勢谷篤次郎氏、来校。児童百二十六名ニ対シ手術セシム。学校豫算中ニテ施術料四円ヲ呈ス。各学年耳腔視診調左ニ。

尋一	甲	一四	乙	二五	三九	(*)
尋二	甲	一一	乙	一三	二五	
尋三	甲	一一	乙	一八	一九	
尋四	甲	一一	乙	一四	一五	
高一	甲	0	乙	一一	一一	
高二	甲	一一	乙	一一	一一	
高三	甲	一一	乙	三	四	甲稍重キ方
計	甲	三〇	乙	九六	一一六	乙稍軽キ方

〈明治40(1907)年7月15日〉 神原縣視學、臨校。学甲第一四三号ヲ以テ學生ノ風紀振肅ニ就テ移牒セラル。学甲第二一九号ヲ以テ明治三十七八年戦後記念トシテ戦利品ニ付記念スヘキコトヲ通牒セラル。付記 明治三十七八年戦後記念トシテ六月十八日郡役所ニ於テ當校ニ授與セラレタル戦利品ハ左ノ七點ナリ。一、連発銃(ビセン付) 一、軍刀 一、清國式軍刀 一、スコップ 一、三吋速射野砲薬莖 一、三吋榴霰彈 一、銃銃 一、寺内大臣ノ訓辞 一葉 伊藤校長当村ヨリ幸便アルマデ暫時郡役所ニ預リ置ケリ。学甲第二三四号ヲ以テ帝國鉄道廳ニ於テ汽車賃金割引ノ旨移牒セラル。(*1)

◆ご家族、地域の皆様、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せない中、健康には十分留意なされ、どうぞご自愛ください。



◆前々回号『「自然災害」と学校』の追加分の訂正

〈大正3(1914)年3月15日〉 早朝、強震アリ。被害ナシ(*1)

註) 秋田仙北(強首)地震…震源は仙北郡。M7.1、震度7程。仙北郡の被害が最もひどく、全体で死者94人、全壊家屋640戸。地割れや山崩れが多発>(*2-10)

〈明治41(1908)年5月11日〉 醫師内田宗欽ヲシテトラホーム、診察セシム。(*1) ※学校医

学年	在籍	受診	軽	重
高一	二	四八	一五	九
尋六	三九	三九	一五	三
全五	四八	四五	二〇	一
全四	五八	五四	二六	三
全三	七三	六六	三六	四
全二	八六	七六	二九	二
全一		二九	四	三

〈明治42(1909)年7月24日〉 左ノ秋田縣遊覽新聞記者團来校セリ。東京市記者 十六名 茨城縣記者 一名 山形縣記者 四名 本縣記者 五名。(*1)

〈明治44(1911)年11月2日〉 當村出身陸軍騎兵大佐岩谷龍太郎、来校。児童ニ對シ訓話ヲナシ、尚、職員児童ニ對シ土産料トシテ金二十五円、送ラレタリ。(*1)

〈大正3(1915)年11月8日〉 脇本停車場開通祝賀會ヲ當校ニ開ク。表門裏門共ニグリーンアーチヲ造リ、体操場ヲ式場ニ、階上南四教室ヲ開放シテ宴会場トナシ、来賓無慮三百五十名。尚、町内ニハ角力、手踊、芝居等ノ余興アリテ近來稀ナル殷賑ヲ極ム。

〈全9日〉 午後ヨリ當校ニ於テ青島陥落ノ祝賀會ヲ開ク。六時ヨリ當校児童ノ提灯行列アリタリ。〈全24日〉 高級児童修学旅行トシテ土崎ニ出向。(*1) ★「大正三年十一月だった。生まれてはじめて『号外』というのを知った。青島陥落の号外だったか鈴を振って脇本へも来た。また、この時男鹿にはじめて鉄道が開通し『汽車』というのを見るに、男鹿全部の人が脇本へ来た位のさわぎだった。」(加藤和一郎 大正7高卒(創立80周年記念誌から)

註) 船川輕便線は、船川築港事業と並行して施工。大正2年・追分一・二田、大正3年・二田一脇本、大正4年・脇本一羽立、大正5年・羽立一船川で開業>(*3-10)

〈大正7(1918)年7月4日〉 磯部儀重氏ヲ聘シ、珠算(実用的)筆算(学理的)ニツキ講話ヲ乞ヒシテ 一、目的 一、緻密一考へ方、解キ方 三、精確 ノ三頁二分ケテ講演サレ、得ル所多大ナリキ。(*1)

註) 磯部儀重…大坂大日本理學研究會主事。他県での講演も有り(*8)

〈昭和21(1946)年1月11日〉 昭和廿年八月十五日終戦後 本日前午十一時半、進駐軍四名、校舎内外巡視セリ。情況 冬休中ニテ日直二名應對ス。校舎各教室並ニ物置ノ軍事色ヲ検ス。次ニ奉安殿内部ヲ検ス。(*1) 結果 軍事色物件無シ。奉安殿御安泰、午後一時半歸ル。

註) 連合国軍總司令部(GHQ)の進駐軍は、昭和20年9月15日に先遣隊が、19日に本隊が秋田市に進駐した。秋田軍政部教育課長モロニーの指揮する巡視は「モロニー旋風」として恐れられた。昭和21年12月、入道崎に米軍レーダー基地

- *1 脇本第一小学校『学校沿革史』【出典・参考文献】 地が完成(*3-9)
- *2 内閣府防災公式ウェブサイト・防災情報「過去の災害一覧」
- *3 男鹿市史編纂委員会『男鹿市史上・下巻』(1995.3.31)
- *4 庄内昭夫『資料紹介「蓑虫山人画紀行」から 明治二四・二七年における山人の旅程と考古資料について』(『秋田県立博物館研究報告 第21号』(2002.3))
- *5 秋田県立博物館『秋田県考古学関係文献 目録一覧』
- *6 秋田県立公文書館『公文書館企画展 公文書で読む明治の学校教育』パンフレット(1994.8)
- *7 籠谷次郎『日清戦争の「戦利品」と学校・寺社—その配付についての考察—』(同志社大学人文科学研究所『社会科学 56号』(1996.1.20))
- *8 『岐蘇林友 第38号』(1912.12.25)…木曾山林資料館
- *9 泉 明・小川公生・鎌田孝一・北嶋雄一・紺葉州・田村房雄・畠山正二 執筆 『保存版 能代・山本・男鹿・南秋の今昔』(郷土出版社、2011.6.11)
- *10 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』